

# 松崎山涌泉寺縁起

附「松ヶ崎題目踊」歌詞

当寺は松崎山と号し、大正七年五月妙泉寺を本涌寺に合併したる故を以て涌泉寺と改称、両寺の歴史を伝う。

**妙泉寺縁起** 旧妙泉寺は、その昔歡喜寺と号し、天台宗叡山三千坊の一にして、延暦年間黄門侍部藤原の建立する所なり。伏見天皇の永仁二年（一〇一〇）五月、時の住職実眼僧都は、宗祖日蓮大聖人の法孫日像聖人と洛陽に值遇し、その法門に帰伏してその門弟となり寺も亦聖人の宗旨となれり。実眼僧都これより法華經を以て村民を化導するに、その化に従うるの日に多かりしが、なお未だ一村華って改宗するに至らず。ここに於て徳治元年（一一〇〇）七月、日像聖人を屈請して、十四日より十六日に至る三日間法筵を開きたるにここに初めて全村民悉く信伏随従し男女四百七十余名同時に旧宗を棄て、悉く法華の信者となる。

**松ヶ崎題目踊** 時に実眼僧都歡喜の余り踊躍して自ら太鼓を打ち、南無妙法蓮華經と唱うれば、列座の信男信女亦隨喜して異口同音に、南無妙法蓮華經と和す。これ即ち「松ヶ崎題目踊」の蓋原にして、日本最古の盆踊りなりと称せらる。爾來毎年八月十五、六日の両日堂前に於てこれを行行を例とす。承応年間、後水尾上皇、東福門院、多数公卿、殿上人、板倉周防守、高木伊勢守、野々山丹後守等の供奉にて本寺に行幸せられ「題目踊」を天覽に供す。旧妙泉寺（現在は松ヶ崎小学校）に聳ゆる老松は天覽の趾にしてこの老松を「御寺の松」と称す。

**妙泉寺と改称** 歡喜寺の後に「日輪の滝」「月輪の滝」と称する二飛泉あり、日像聖人この飛泉に因みて妙泉寺と改む。且つ改宗を記念し四方正面の石塔に自ら法華題目を書して、これを建て且つ又本尊を書し法華經を以て村社の神体となす。この時に当り実眼僧都、日像聖人を妙泉寺の開祖に仰ぎ自ら二祖に爲る。村内の虎背山に經塚数珠塚、神輿塚、の三塚あり、これ改宗の時旧宗の仏具、數珠並に村社の神輿等を埋めたる趾なり。

**送火妙法** 日像聖人村の西山に南面して自ら杖をひいて「妙」の字を書せり。その文字一山に遍滿せるが、後妙泉寺末下鴨大明寺（今は廢寺）二祖日良聖人東山に同じく南面して「法」の字を書せり。毎年八月十六日「送火妙法」を点火して妙法弘布に賢し來れり。

**大乗院** 往古妙泉寺に塔中五ヶ院あり。大乗院（註、小説「月形半平太」にあらわれてくる寺なり）止静院、実成院、宝泉院、玉禪院という。これに本寺を合して「妙泉寺六坊」と呼びたり。この五ヶ院は明治九年本寺の妙泉寺に合併せられたり。

**本涌寺縁起** 旧本涌寺は開山教藏院日生聖人にして天正二年（一五七四）の創立なり。開山日生聖人は少壯の時、当地僧都谷に庵を結び、学を修め僧を教育す。漸く盛なるに及び講堂を建てて檀林となす。実に天正二年二月なり。時に学徒雲集し書生星列す。加之、山門専門の修学者もまた多かりしという。これ宗門学林を開くの最初なり爾來字匠相統して明治九年まで連續絶えず。「法華宗根本学室」として宗門檀林の權威たりき。

**松ヶ崎檀林** 現在の涌泉寺本堂は檀林の講堂にして、承応三年（一〇一〇）女院御所造営の残木を採擷して建立する所にして、結構を極めたる建築なり。その他妙玄堂、白頭軒、半月軒などいふ寮舎ありしが、明治九年檀林廃止と共に毀ちたり。明治十九年十月ここに「宗立第七教区小檀林」を設置し、旧時の檀林を偲ばしむるものありしが学制改革のため明治三十七年三月を以て廢林せらる。

**涌泉寺と改称** 本涌寺の庫裡は隣村の藏寺道入寺に移され、講堂ひとり残されて荒廢に委せられたりしが、大正七年五月十四日官許を以て旧妙泉寺と合併なり、涌泉寺と改称し旧本涌寺の地に置く。旧妙泉寺は村靈瑞應寺門跡經宮の宗門唯一の尼衆修道院となりしが、後松ヶ崎小学校の校舎となり。尼衆修道院は涌泉寺境内に移転す。

**生師廟** 当寺山門前に檀林開祖日生聖人の御廟あり、境外仏堂として七面堂あり。また寺室に宗祖文永四年五月十二日の御消息断片、像師本尊三幅、実眼僧都十種供養文、生師本尊四幅。生師筆大乗起信論等多數を蔵す。